

卒業生（令和6年度）による到達度評価結果

1. 卒業生による到達度評価について

1) 概要

保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正により、令和4年度から新しいカリキュラム（5次改定）の運用が開始となった。昨年度は新しいカリキュラムを履修した学生が卒業をむかえたが、卒業直前に本校での在学年間をとおした自己の成長についてふりかえてもらった。この結果は、3年間教授してきた新しいカリキュラムの評価指標のひとつであり、結果から本校の教育の成果や課題等を明らかにすることにした。

2) 内容

A. “卒業生の特性” についての学生自己評価

本校の卒業認定・専門士称号付与の方針【ディプロマ・ポリシー】に掲げている“卒業生の特性”への到達度について、卒業直前に学生自身に自己評価してもらった。評価項目は30項目・5段階評定。

また、本校在学年間をとおした自己の成長と現時点での自己の課題について自由記載とした。

＊ 評価項目30項目は、「本校卒業生の特性」（下記）にあわせ独自に作成

参考「鳥取看護専門学校卒業生の特性」

1. 対象の多様性・複雑性を理解し、人間を統合された存在として幅広く捉えることができる。
2. 生命を尊び、共感的態度および倫理に基づいた行動ができる。
3. 科学的思考および臨床判断に基づいた看護が実践できる基礎的能力を習得する。
4. 人間関係を築きながら、安全で質の高い看護を実践できる基礎的能力を習得する。
5. 保健医療福祉チームの一員として看護の役割を理解し、多職種と連携・協働できる基礎的能力を習得する。
6. 社会の動向に関心を持ち、専門職として主体的に探究、学習する。

B. “社会人基礎力” についての学生自己評価

“社会人基礎力”とは、経済産業省が提唱した職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力のこと。「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成される。

これら“社会人基礎力”について、卒業直前に学生自身に自己評価してもらった。

参考 経済産業省ホームページより引用

経済産業省が主催した有識者会議により、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を「社会人基礎力（＝3つの能力・12の能力要素）」として定義。

前に踏み出す力（アクション）

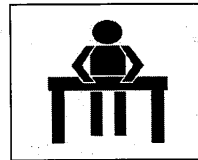
～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～



- 主体性
物事に進んで取り組む力
- 働きかけ力
他人に働きかけ巻き込む力
- 実行力
目的を設定し確実に行動する力

考え抜く力（シンキング）

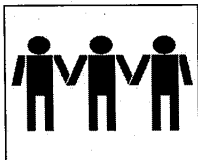
～疑問を持ち、考え抜く力～



- 課題発見力
現状を分析し目的や課題を明らかにする力
- 計画力
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
- 創造力
新しい価値を生み出す力

チームで働く力（チームワーク）

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～



- 発信力
自分の意見をわかりやすく伝える力
- 傾聴力
相手の意見を丁寧に聴く力
- 柔軟性
意見の違いや立場の違いを理解する力
- 状況把握力
自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
- 規律性
社会のルールや人との約束を守る力
- ストレスコントロール力
ストレスの発生源に対応する力

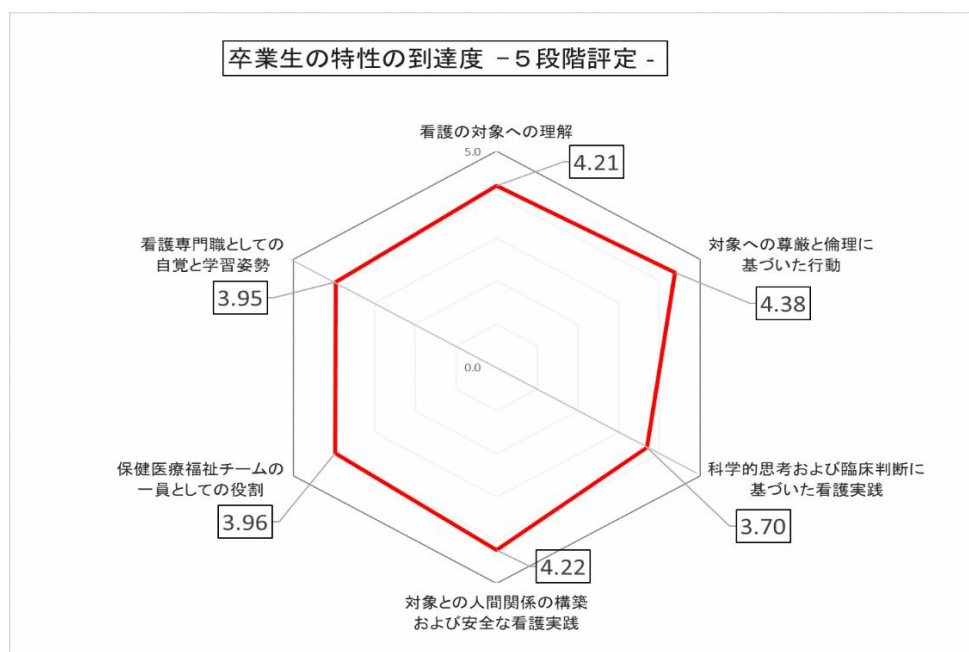
5 非常に当てはまる・よく身についている
 4 かなり当てはまる・わりと身についている
 3 わりに当てはまる・多少身についている
 2 あまり当てはまらない・あまり身についていない
 1 ほとんど当てはまらない・ほとんど身についていない

2. 結果・分析

A. “卒業生の特性” についての学生自己評価

(学生数36人)

特性	評価項目		平均	特性 平均
看護の対象への理解	1	看護の対象は身体的・心理的・社会的側面をもつ統合された存在であることを理解し全体像を把握する	4.28	4.21
	2	本能的なニーズの他に、健康を害することにより人間に表れる様々な反応や影響について分析する	4.03	
	3	看護の対象の発達段階や人間が経験を積み重ね、思考、学習し発達することを踏まえ対象と関わる	4.06	
	4	看護は、疾病や障害などの健康障害を抱える人々だけでなく、健康な人々も対象とすることがわかる	4.28	
	5	看護の対象は個人だけでなく、家族や学校、職域などの集団、人々が暮らす地域社会に広がっていると学ぶ	4.42	
基対象への行動と倫理に	1	看護の対象へいたわりや思いやりの心をもち誠実に対応する	4.58	4.38
	2	看護の対象の特性にあわせ、わかりやすく会話したり説明したりする	4.19	
	3	看護の対象の意思や価値観、プライバシーを尊重して看護を実践する	4.33	
	4	看護の対象の様々な生活背景を理解した上で看護を実践する	4.11	
	5	守秘義務を遵守し、実習施設で知り得た個人や施設の情報の保護に努める	4.67	
断科に基つた看護実践	1	コミュニケーションや観察、フィジカルアセスメント等を組み合わせ、正確な情報を収集する	3.78	3.70
	2	解剖生理学や病態治療学等の専門的知識を統合し対象の健康状態をアセスメントする	3.56	
	3	看護学等の専門的知識を統合し根拠に基づいた看護を実践する	3.78	
	4	健康上の問題の解決にむけ、看護過程の各段階を繰り返し循環しながら看護を展開する	3.61	
	5	基準や根拠に基づき論理的に思考し、今後の予測や優先順位を判断する	3.78	
対象と全人間的関係の実践の構築	1	看護の対象に深い関心を持ち、寄り添う、わかろうとする態度で関わる	4.42	4.22
	2	治療的コミュニケーションの技法を用いながら看護の対象の思いをよく聴き、受けとめる	4.39	
	3	看護の対象を敬い、ていねいな言葉でコミュニケーションを取る	4.50	
	4	今までに積み上げた知識、原理・原則に基づき安全な看護を実践する	3.94	
	5	危険を予見しその回避に努め、看護の対象の安全を確保する	3.86	
保健医療福祉チームの一員としての役割	1	他職種の役割を理解した上で、看護師独自の役割について理解を深める	3.94	3.96
	2	チームの一員としてより良い看護・医療を提供するために、他者（実習指導者・専任教員等）に支援を求める	4.11	
	3	対象の健康問題の解決にむけ、チームメンバー（実習指導者）と情報を共有し協働する	4.06	
	4	保健医療福祉システム、社会資源について理解を深める	3.75	
	5	病院内外の部門・施設間の連携・協働の場面を学び、その方法や実際を理解する	3.94	
看護専門職としての自覚	1	人々の生命、健康に関わる職業に就く責任を自覚し、自分自身の健康管理に努め学習する	4.22	3.95
	2	周囲の信頼を得られるようルールを守り品行方正に行動する	4.28	
	3	主体的に専門的知識や技術を探求・学習する	3.78	
	4	自分の能力や学習成績を客観的に認知し、課題を見出しながら学習を継続する	3.75	
	5	社会の動向への関心や看護の仕事への使命感を高める	3.72	



平均点4.0以上は、「対象への尊厳と倫理に基づく行動(平均 4.38)」、「対象との人間関係の構築および安全な看護実践(平均 4.22)」、「看護の対象の理解(4.21)」である。また、平均点が最も低かったのは、「科学的思考・臨床判断に基づく看護実践(平均 3.56)」であった。

倫理観・責任感や患者尊重の姿勢といった人間性に関する側面に関する教育の成果がうかがえた一方で、専門的知識の統合と臨床判断力が課題であり、今後の教育改善の重点となることがわかった。解剖生理学や病態治療学等を統合したアセスメントや科学的根拠に基づく論理的判断、看護過程を循環させた看護の展開について、演習や臨地実習で一層強化する必要がある。

【自己の成長(一部抜粋)】＊ 自由記載の内容をカテゴリー整理

カテゴリー	記載内容(一部抜粋)
知識・技術の習得	「基礎知識・技術の習得」 「アセスメント力をつけ、患者を様々な側面から理解するために必要な情報収集ができるようになった」 「効率的かつ患者の安全・安楽に配慮して看護をすることが身についた」
コミュニケーション力	「患者との会話でスムーズに聞きたいことを聞けるようになった」 「非言語的コミュニケーションを理解し、相手に寄り添う力が身についた」 「グループワークで自分から意見を出せるようになった」
協働性	「グループをまとめる力が身についた」 「困難なときに仲間に助言を求め、一緒に解決することができた」 「多職種と連携しながら患者を支援することができた」
専門職としての自覚	「看護師は人間の生命に関わる仕事であることを理解し、責任感をもって実習に取り組んだ」 「行動に伴う責任について理解できるようになった」 「将来、命を預かる職業につく身として責任を心がけられるようになった」
主体性・積極性	「実習で自分から進んで質問できるようになった」 「発表やカンファレンスで自分の考えを伝えられるようになった」 「以前は消極的だったが、徐々に率先して行動できるようになった」
自己管理	「以前は計画性がなかったが、多重課題に対してスケジュール管理を行えるようになった」 「事前に見通しをもって取り組むようになった」 「取捨選択し、効率よく物事を進める力が身についた」
内面の成長	「自分がどこまでできて、何ができないかを客観視できるようになった」 「少しだけメンタルが強くなり、悩みを人に話せるようになった」 「柔軟な考えを持つことができた」

【自己の課題(一部抜粋)】＊ 自由記載の内容をカテゴリー整理

カテゴリー	記載内容(一部抜粋)
知識・技術の不足	「知識や技術がまだ足りない」 「実習で技術不足を実感した」 「根拠を考えて発言することが足りない」
コミュニケーション力	「集団の前で発言できない」 「相手の立場を考えずに発言してしまう」 「自分の意見をはっきり言えない」
責任感	「困難があっても責任感をもってやりきること」 「不測の事態に素早く判断できるようになること」
主体性・積極性	「やる気が出ないと後回しにする」 「新しいことに挑戦する積極性がない」 「自分の意見をしっかりと伝えようになりたい」
精神面の弱さ	「焦りやすい、緊張・不安に弱い」 「ネガティブ思考、失敗を引きずる」 「意志が弱い、向上心が持てない」
自己管理	「計画性が不十分(課題を後回しにする、期限ぎりぎりになる)」 「生活リズム(早寝早起き、規則正しい生活)」 「自立性の不足」

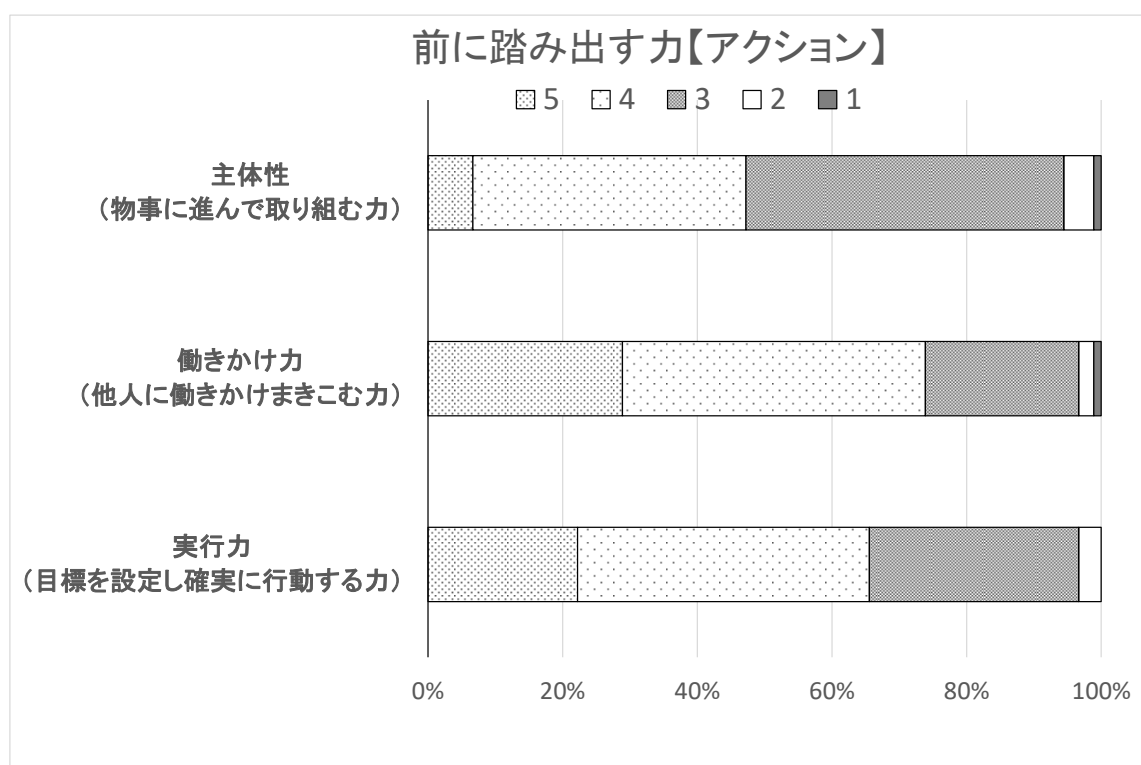
学生は、知識・技術の獲得に加え、主体性やコミュニケーション能力、協働性の発展、さらには専門職としての意識の醸成へと成長しており、本校教育の成果が多面的に確認された。

一方で、学生は、知識・技術への不安、精神面の弱さ、学習習慣や生活管理の不十分さといった課題を多く挙げていた。また、コミュニケーション力・主体性の不足を自覚する記述もあった。

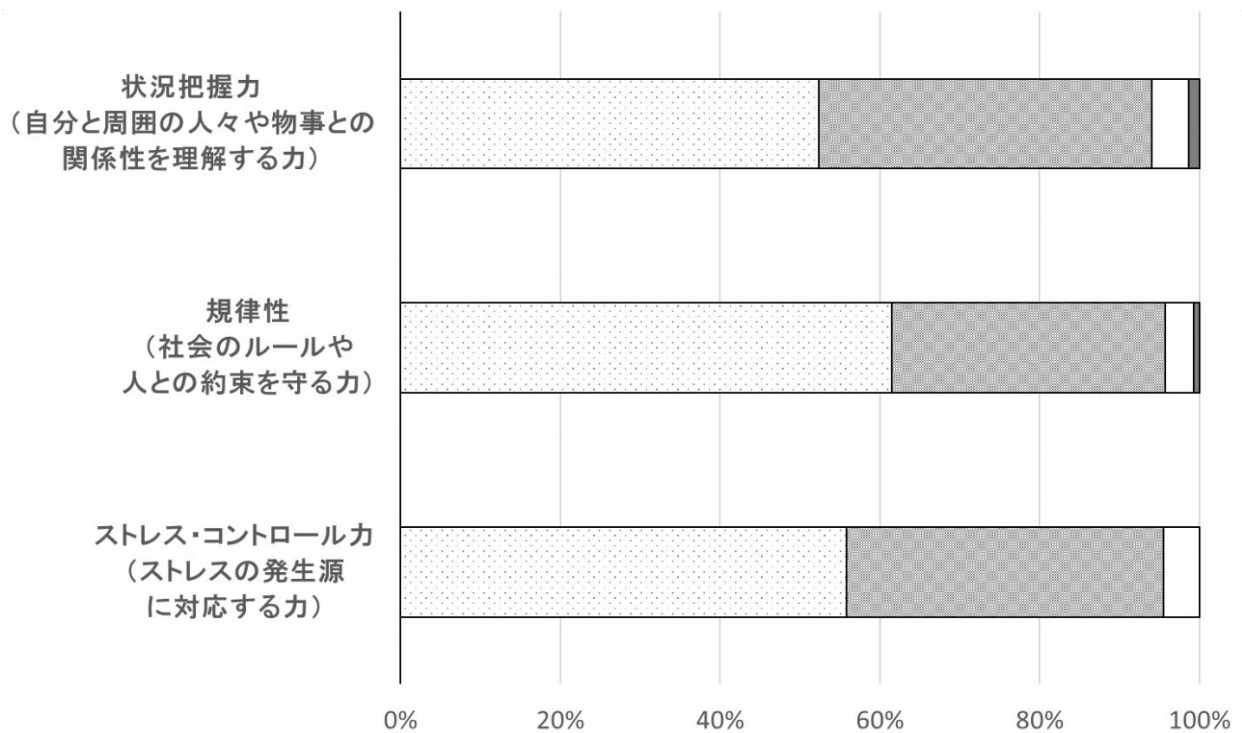
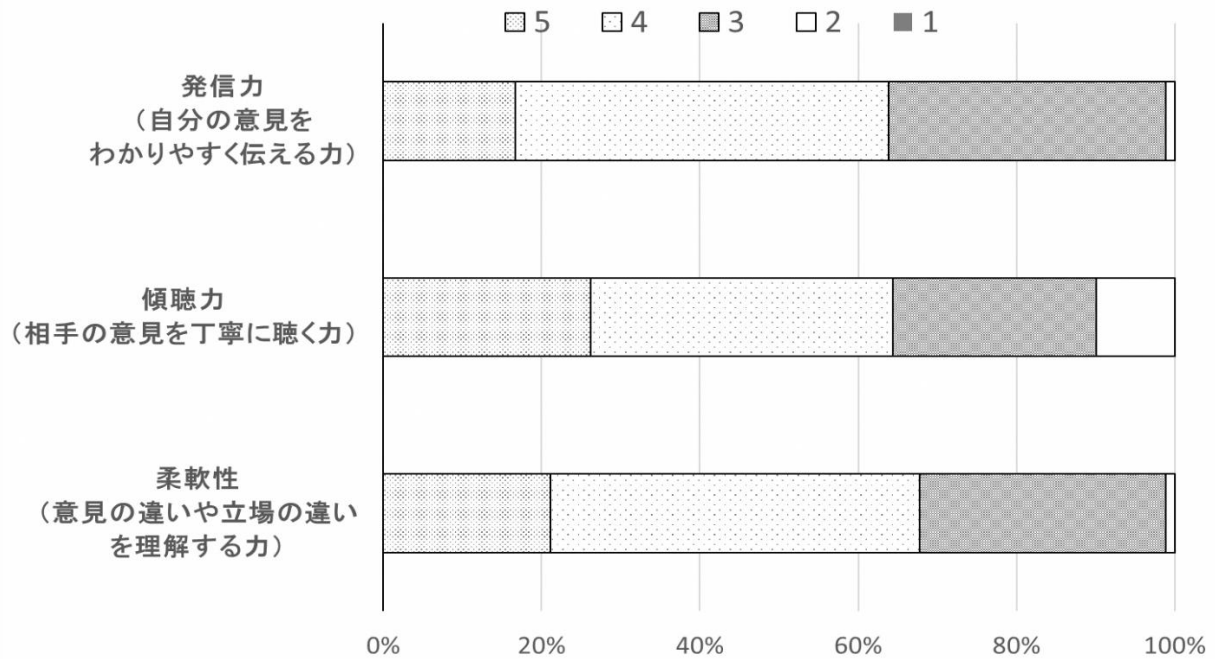
今後、学習支援・精神的サポート・実践的コミュニケーション訓練を充実させることで、学生の成長を促すことが必要である。

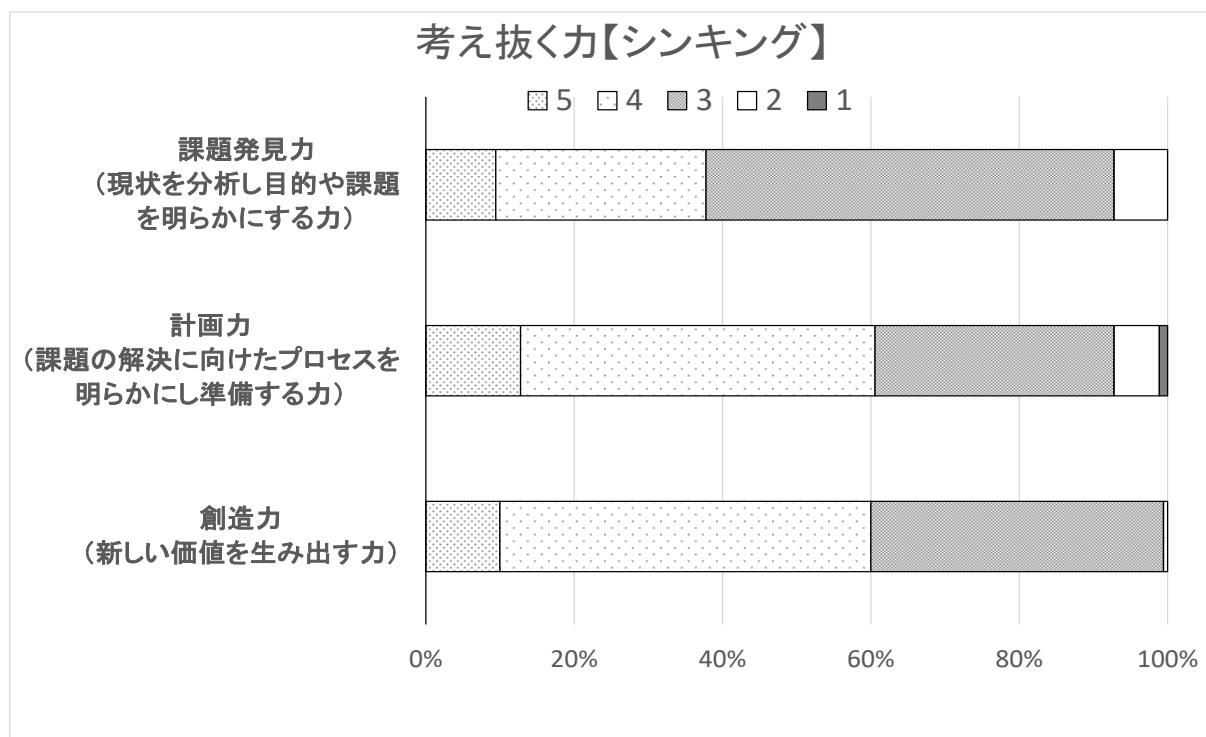
B. “社会人基礎力” についての学生自己評価 (学生数36人)

- 5 周囲も明らかに認める行動がとれている
4 行動がとれている
3 どちらかといえば行動がとれている
2 あまり行動がとれていない
1 行動がとれていない



チームで働く力【チームワーク】





傾聴力や規律性など対人関係やルール遵守、相手への配慮、環境への適応力が学生に育成されていることが確認され、看護師として必要な協調性や誠実さが基盤として形成されていると評価できる。

一方、自ら主体的に挑戦する力や計画を立て確実に行動する力、新しい価値を生み出す力が相対的に弱く、臨床現場で求められる「自ら判断し、行動する力」を高めるため、実践的な取り組みの機会が必要であることがわかった。